



# JSQC ニュース

No.296

発行 社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス ANQ Congress Tokyo 2009を終えて
- 2-私の提言 関西支部での活動とおして感じたこと
- 2-ルポルタージュ 第17回YSSルポ
- 3-ルポルタージュ 第345回事業所見学会/デミング賞/8月入会者紹介
- 4-9月入会者紹介/行事案内/各賞表彰/第39年度役員体制役割分担

## ANQ Congress Tokyo 2009を終えて

国際委員会委員長 鈴木 知道

### 大会の概要

第7回アジア品質ネットワーク東京大会が、9月15日から9月18日にかけて東京の早稲田大学西早稲田キャンパスにて開催された。日本での開催はANQの準備大会にあたる2002年のAQS以来であり、ANQの正式な大会としては初の開催となった。

大会は日本品質管理学会と早稲田大学理工学術院との共催、そして日本科学技術連盟及び日本規格協会の協賛で行われた。大会運営にあたって、組織委員会は理事会が、実行委員会は国際委員会が、プログラム委員会は論文誌編集委員会が主体となった。

アジアを中心に21の国・地域から、合計400名を超える参加があり、盛況裏に大会を終了することができた。海外からの参加者も約250名あり、昨今の世界的な経済状況を考慮すると、予想を超える多くの研究者・実務家の参加を得ることができた。

### 大会の様子

大会に先だって14日と15日にANQ理事会が行われた。ANQの発展、拡大に伴い議事が増え、今回から2日間の開催となった。また、コミュニケーションミーティングと称するANQの全組織の代表による会議が開かれた。全ての会員組織が意見を発言できる場の重要性が改めて認識され、今後は継続的にこのような会議が開かれるであろう。

大会の最初のプログラムは、15日夕

方のウェルカムレセプションであった。今回の目玉はSIG (Special Interest Group) である。SIGは10名程度の小グループであり、リーダーが提案したテーマに沿って議論を行うものであり、参加者間のコミュニケーションを活発化させることも目的の一つである。実際、多くの国の方々が程よく混じり、活発な議論が行われた。

16日の9時から開会式が開かれた。今回のANQ大会では、特に国内からの参加者増加を目指して、すべての基調講演が英語日本語間の同時通訳つきで行われた。ANQ会長のJanak Mehta氏、そして小松製作所代表取締役会長の坂根正弘氏から、聴衆が熱心に聞き入る貴重な講演をいただいた。

16日の午後から17日の午後にかけて、テクニカルセッションが行われた。オーラル発表とポスター発表の合計で162件と多くの発表があった。特筆すべきは、オーラル発表のキャンセルが皆無だったことだ。キャンセルポリシーを明示したこと、そしてスタンバイペーパーを準備した効果もあり、予定通り100件の発表が行われた。特別セッションとして行われた二つのパネルディスカッションと一つのサテライトセッションも盛況であった。

閉会式ではIAQ会長のGregory Watson氏、ANQ名誉会長の狩野紀昭氏から有益な基調講演をいただいた。引き続き表彰式が行われ、優秀論文賞は、ポスター発表の論文も含め11組織

からの延べ20件の論文に与えられた。そして、インドのニューデリーでの次回ANQ大会開催の紹介が行われた。

閉会式に引き続いて、フェアウェルパーティーが開催された。再びSIGが開催され、さらに参加者間の交流が深められた。SIGの後に、各組織からの出し物が催され、それぞれ歌や踊りを披露していただいた。最後は、参加者全員が非常に和気あいあいとした雰囲気の中、解散となった。

最終日の18日には、3つの見学会(日産自動車(株)追浜工場、サンデン(株)サンデンフォレスト、東京電力(株)富津火力発電所)が行われた。いずれも定員いっぱい、参加者は希望した見学所を堪能したようだった。

### 今後に向けて

JSQCとしては産のメンバーを中心に、より質・量とも高めた参加を促すこと、ANQとしては、各国会員組織間の連携をより強くしていくことが今後の課題として挙げられるのではないかと思う。

今回の大会の運営方針はANQ Wayにのっとり、「質素、手作り」を掲げて行われた。プロのイベント業者を使わない、完全手作りの大会となった。その分、至らなかった点も多くあったと思われるが、非常に多くの方々のご協力のおかげで、成功裏に大会を終了することができた。改めて、感謝の意を表したい。

## ● 私の提言 ●

## 関西支部での活動をとおして感じたこと

大阪大学 黒木 学



品質管理のイロハも満足に知らず、学会活動など表立った活動も得意ではない私が関西支部役員となり、研究発表会（関西支部）責任者となったのは2006年10月であった。それまでは発表件数・参加者数ともに、私には「普通」のレベルとは思えない関西支部の研究発表会を「普通」にしたいと思い、関東から来た「外様」の私が関西支部のために奮起したのは、猪原先生（大阪電通大）と泉井先生（関大）の激励があったからだだと記憶している。今にして思えば、不出来な私をよくぞ信頼してくれたものだと感心する一方

で、私は会員の期待にちゃんと応えているのだろうかと自問自答することがある。

その関西支部の研究発表会が、最近では「普通」の状態に変わりつつある。2007年度は、1) アンケート調査、2) 「研究」と「事例」の2セッション制、を実施し、次年度には3) 特別講演の実施、4) 発表賞の創設、を行った。2009年度は責任者からは外れ、その代わりに関西支部を活性化するという目的で、5) 「統計的品質情報技術開発研究会」を立ち上げた。1) から4) については研究発表会の活性化に結びつきつつある一方で、5) については、今年度は研究会メンバーのポテンシャルに頼らざるをえなかったことが残念であった。来年度は、メンバーとともに学会

の活性化に貢献をしたいと考えている。

1) と2) を実施するにあたり、「学会のあゆみ」を参考にした。そこから察するに、80年代までは、業種・地域・考え方の異なる様々な会員が研究発表会で発表していたようである。それは、まるで異文化交流の場であり、活気に満ちた研究発表会の様子が垣間見られるだけでなく、いかなる問題も「品質問題」として許容する学会の「度量の広さ」を感じとることができる。「学会のあゆみ」を読んだとき、私には、学会設立者の意思や学会史の中に品質管理学会の飛躍に結びつくヒントが隠されているような気がしてならなかった。過去の活動と比較するわけではないが、最近になって「80年代以上に価値観が多様化した現在、我々にそのような度量の広さはあるのだろうか？」と考えることがある。品質管理学会として新たな挑戦を続けることも重要であるが、原点に立ち戻って学会のあるべき姿を再検討することも必要なのではないだろうか。

第17回  
YSS  
ルポIPC生産性  
国際交流センター

2009年8月30・31日に、第17回ヤング・サマー・セミナー（YSS）が開催された。今年（財）日本生産性本部様のご厚意により、同研修施設であるIPC生産性国際交流センターを使用させていただいた。参加資格は35歳以下の正会員・準会員であり、今年（財）企業から3名、大学教員4名、学生23名の計30名が参加し、講演と研究発表・討論が行われた。

初日はまず、筑波大学大学院システム情報工学研究科構造エネルギー工学専攻の庄司学氏に「地震・津波に係わる災害ハザードとライフラインシステム」という題目で、災害リスク軽減に向けたライフラインシステムに対する工学的対策の検討についてお話しいただいた。次に、東京電力(株)技術開発本部ヒューマンファクターグループの古濱寛氏に「災害等事例の調査・分析に学ぶ～ヒューマンファクターの視点から～」という題目で、ヒューマ

ンエラーの分析・対策立案方法についてご講演いただいた。その後、早稲田大学の根本拓也さんが「原子力安全における不適合事象の要因分類に関する研究」、東京理科大学の隄雄亮さんと高田康平さんが「3水準系直交配列表における研究」の発表を行った。

夜には懇親会が行われ、参加者同士の親睦を深めるとともに、研究内容に関する議論が積極的になされた。

翌日は、東京大学の下野僚子さんが「病院業務における不具合分析手法」、東京都市大学の伊藤大造さんが「レストランにおける入店構造モデル」、名古屋工業大学の門野巧さんが「味覚評価における複合感覚の影響」という題目で発表を行った。最後に、電気通信大学電気通信学研究科システム工学専攻の鈴木和幸氏に「プラントにおける事故・トラブルの分析と未然防止」というテーマで、未然防止のための管理要因着眼点についてご講演いただいた。

今年度のセミナーでも、有意義な討論を行うことができた。こうした機会を与えてくださった学会の皆様へ感謝し、今後のさらなる発展を期待したい。

梶原 千里（早稲田大学）

## 第345回関西 事業所見学会 ルポ

### 神鋼神戸発電(株)

平成21年9月1日 第345回事業所見学会が神鋼神戸発電(株)で開催された。「神鋼神戸発電所における環境保全活動」をテーマに18名が参加し、都市型発電所の環境保全対策や地域との共生のあり方について学ぶことができた。

まぶしいほどの青空の下、参加者を乗せたバスが神鋼神戸発電所に併設された灘浜サイエンススクエアに到着し、見学会が始まった。同所は、「製鉄」「発電」「エネルギー」「環境」をテーマに遊びながら科学や技術のおもしろさ、不思議さを体験できる体感型ミュージアムとなっている。

発電所の見学に先立ち、神鋼神戸発電所の建設経緯と発電所の概要説明があった。神鋼神戸発電所は、都市圏立地の石炭火力発電所として、神戸市の電力自給率の向上や災害に強い都市づくりのために建設され、発電した

全電力を関西電力に供給しているとのことだった。また、環境保全のために、景観、粉じん防止、大気汚染防止、水質汚濁防止及びリサイクルの観点から様々な対策が施されており、それら設備の概要と管理目標や実績などの詳しい説明があった。

続いて、専属のガイドの方に案内され発電所を見学した。バスの車窓を通して、また発電所屋上に登り、タービン建家に入って中央操作室などを見学する中で、発電所総建設工事費の約30%の費用を投じた巨大な環境保全対策の設備群を目の当たりにし、環境保全の重要性について改めて実感した。見学コースの最後は、灘浜サイエンススクエアのライドシアターに乗車。これは発電所内の配管や設備を通過する仮想のアトラクションで、石炭火力発電のしくみを体感することで更に理解を深めることができた。見学後の質疑応答も活発で、充実した見学会であった。

帰路のバスに乗り、発電所にそびえる高さ150メートルの煙突を見上げた時、それまで抱いていた石炭火力発電所のイメージが一新していることに気が付いた。

野尻 節雄 (前田建設工業(株))

デミング賞委員会(委員長 御手洗 富士夫)において、2009年度の日本品質管理賞、デミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は11月11日経団連会館にて執り行われました。

#### 1. デミング賞本賞

長田 洋 氏 東京工業大学大学院 教授

#### 2. デミング賞普及・推進功労賞

Gregory H. Watson 氏 (アメリカ)  
Chairman and Managing Partner, Business Excellence Solutions, Limited

#### 3. デミング賞実施賞

新潟ダイヤモンド電子株式会社  
The Siam White Cement Company Limited (タイ)

#### 4. 日経品質管理文献賞(文献名五十音順)

- (1) 「ADLに関するケア決定プロセスモデルの設計」  
「ケア決定プロセスに必要なADLに関する知識コンテンツの構築」  
加藤 省悟、水流 聡子、飯塚 悦功 著
- (2) 「開発・営業・スタッフの小集団プロセス改善活動  
-全員参加による経営革新-」  
社団法人日本品質管理学会  
管理・間接職場における小集団改善活動研究会 編
- (3) 「JSQC選書1 Q-JAPAN-よみがえれ、品質立国日本-」  
飯塚 悦功 著
- (4) 「設計科学におけるタグチメソッド  
-パラメータ設計の体系化と新たなSN比解析-」  
椿 広計、河村 敏彦 著
- (5) 「シリーズ〈現代の品質管理〉2  
統計的品質管理-ステップアップのためのガイドブッカー-」  
永田 靖 著

### 2009年8月の入会者紹介

2009年8月3日の資格審査において、下記の通り正会員4名、準会員5名の入会が承認されました。

(正会員4名) ○橋本 大生(デンソー)  
○高橋 雅士(NECソフト) ○小菅 正憲(松波総合病院) ○佐野 夏樹(統計数理研究所)

(準会員5名) ○根本 拓也・大山 仁・大迫 勇太・岡山 明史・須藤 祐貴(早稲田大学)

正会員2693名  
準会員87名  
賛助会員170社197口  
公共会員23口

### 2009年9月の入会者紹介

2009年9月8日の理事会において、下記の通り正会員10名、準会員8名、公共会員10名の入会が承認されました。

(正会員10名) ○稲垣 雄史(統計数理研究所) ○田中 信行(パナソニックエレクトロニクスデバイスジャパン) ○村田 彰二(サポート・エム) ○岩永 りか(岩永法律事務所) ○日高徹司(博報堂) ○戸部 依子(日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会) ○門脇 一彦(ダイキン工業) ○伊藤 まさ子(千葉県千葉リハビリテーションセンター) ○望月 敬也(パイオニア・マイクロ・テクノロジー) ○室澤 良樹(住友金属鉱山)

(準会員8名) ○門野 巧・桧鼻 佑貴(名古屋工業大学) ○伊藤 大造・近藤賢太(東京都市大学) ○栗原 浩太・高 徳堃・田村 佳衣(電気通信大学) ○松島 七衣(早稲田大学)

(公共会員1口) ○富山県立大学附属図書館

正会員2688名  
準会員95名  
賛助会員170社197口  
公共会員24口

## 行事案内

### ●第130回シンポジウム(本部)

テーマ: サービス産業の価値創造革新はこうする! 一新サービス企画成功のカギを探る

日時: 2009年12月11日(金)10:00~17:00

会場: 日本科学技術連盟 東高円寺ビル 2階講堂

定員: 150名

参加費: 会員 5,000円(締切後 5,500円)  
非会員10,000円(締切後10,500円)  
準会員 2,500円 一般学生3,500円

申込締切: 12月4日(金)

プログラム:

趣旨説明と活動報告

神田範明氏(成城大学)

基調講演「サービスサイエンスのすすめ」

諏訪良武氏

(ワクコンサルティング(株))

報告(1) 「サービスクオリティ研究事例ーサービス品質の向上を目指してー」

小関隆文氏(日本電気(株))

報告(2) 「サービス産業の顧客価値創造実態調査から」

小久保雄介氏(成城大学)

報告(3) 「新サービス創造のための実験調査から」

神田範明氏(成城大学)

企画事例「女性商品企画者集団「ドリームプランナー」による女性のための画期的サービス創造事例集」

張 薇薇氏(株)バルク)

パネルディスカッション

申込方法:

同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからも申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

行事申込先

JSQCホームページ: [www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)

本部: TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: [apply@jsqc.org](mailto:apply@jsqc.org)

## 各賞表彰

第39回通常総会において、第38年度研究奨励賞1件、品質技術賞1件、ならびに品質管理推進功労賞3氏の授賞および表彰が行われた。

### 【研究奨励賞】

『顧客満足度への経済変動バイアスの影響と企業努力を反映するその補正方法について』

フランク・ビョーン 氏 (東京工業大学)

「品質」Vol. 39, 1, pp. 119-128 (2009)

### 【品質技術賞】

『日立における不具合未然防止の取組みとその支援システムの構築』

奥名健二氏 (株)日立製作所)

津山努氏 (株)日立製作所)

「品質」Vol. 39, 3, pp. 42-46 (2009)

### 【2009年度 品質管理推進功労賞】

神山増己氏 パナソニック電工(株)

清水浩和氏 トヨタ自動車(株)

永原賢造氏 (株)リコー

## 第39年度役員体制決まる

去る10月31日に開催された第39回通常総会において新役員が選出承認され、第39年度の役員体制は以下のとおり決まった。

◇	◇	◇
会長	鈴木 和幸	電気通信大学
副会長	皆川 昭一	クラリオン
〃	椿 広計	統計数理研究所
理事	石井 和克	金沢工業大学
〃	猪原 正守	大阪電気通信大学
〃	大藤 正	玉川大学
〃	兼子 毅	東京都市大学
〃	神田 範明	成城大学
〃	鈴木 知道	東京理科大学
〃	鈴木 秀男	慶應義塾大学
〃	田中 健次	電気通信大学
〃	中島 宣彦	日本科学技術連盟
〃	新家 達弥	日立製作所
〃	平岡 靖敏	日本規格協会
〃	福丸 典芳	福丸マネジメントテクノ
〃	水野 隆文	東海理化
〃	棟近 雅彦	早稲田大学
〃	村川 賢司	前田建設工業
〃	渡辺 喜道	山梨大学
学会理事	伊藤 誠	筑波大学
〃	井口 新一	日本適合性認定協会
〃	白井 良平	関西電力
〃	松浦 強	オリンパス
監事	尾島 善一	東京理科大学
〃	釜谷 佳男	日本規格協会
顧問	圓川 隆夫	東京工業大学
〃	大沼 邦彦	日立オートモティブシステムズ

## 第39年度役員役割分担表

論文誌編集	○棟近
学会誌編集	○福丸
広報	○兼子
事業	○大藤
研究開発	○渡辺
規定	○平岡
会員サービス	○神田
選挙管理	○鈴木(和) ○田中
庶務	○田中
会計	○中島
最優秀論文賞/研究奨励賞	○椿 ○棟近
品質技術賞	○皆川 ○福丸
品質管理推進功労賞	○鈴木(和) ○皆川
国際	○鈴木(知)
標準	○村川
総合企画	○鈴木(和) ○皆川 ○椿
研究助成特別	○石井
ANQ支援特別	○鈴木(知) ○飯塚 ○安藤
QC相談室特別	○猪原
JSQC選書特別	○飯塚
原子力安全特別	○中條
品質保証ガイドブック特別	○中條
公益法人対対応特別	○鈴木(秀) ○新家
中部支部	○木下 水野 石井
関西支部	○白井 猪原
ソフトウェア部会	○兼子 ○笹部 ○保田
QMS有効性および審査研究部会	○福丸 ○平林
医療の質・安全部会	○棟近 ○水流 ○永井(庸)

◎委員長、支部長、部会長 ○副委員長、副部会長